

モラロジー研究会（2023年7月19日）

最高道德の実行と品性完成の関係について

道德は実行すべき何かなのか、あるいは、人間の「生き方」に関わる何かなのか。「最高道德はその実行をもって生命となす」という文言は、道德の実践を重視する姿勢を反映している。最高道德の実行は品性完成の手段であるという考え方も、しかりである。一方、『論文』に出てくる、五大原理を踏まえた品性完成の状態あるいは「真に救済された人」の描写は、道德とは「生き方」に関わる何かであるという見方を支持する。そこでは、行為や実践ではなくむしろ精神（作用）の重要性が強調される。モラロジーの社会教育用テキストの分析は、精神の重要性がいつそう強調されるようになってきていること、そのため、最高道德の実行は品性完成の手段であるという考え方が退けられている可能性があることを示している。報告者は、最高道德をもつばら人間の「生き方」に関わる何か（標準や基準等）として説明する方向性は、モラロジーの開放性に貢献すると主張した。これに対してコメントーターからは反論が出され、活発な議論が交わされた。

（文責：道科研 客員教授 梅田徹）